

3-1-8 悪臭の状況

対象事業実施区域及びその周辺では、悪臭の調査は実施されていない。

3-1-9 地形及び地質等の状況

1. 地形

対象事業実施区域及びその周辺の地形は、図3-1. 15に示すとおりである。

対象事業実施区域内は、上位砂礫台地となっており、対象事業実施区域の周辺は、主に上位砂礫台地及び切地・改良地となっている。鹿島川や都川などの河川沿いには、河谷に沿うように谷底平野が分布し、台地中に谷地田として入る地形となっている。

2. 地質

対象事業実施区域及びその周辺の表層地質図は、図3-1. 16に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周辺は、大部分が火山性岩石（ローム）となっており、鹿島川、都川、支川都川、坂月川等の河川に沿って泥がち堆積物、砂がち堆積物がみられる。

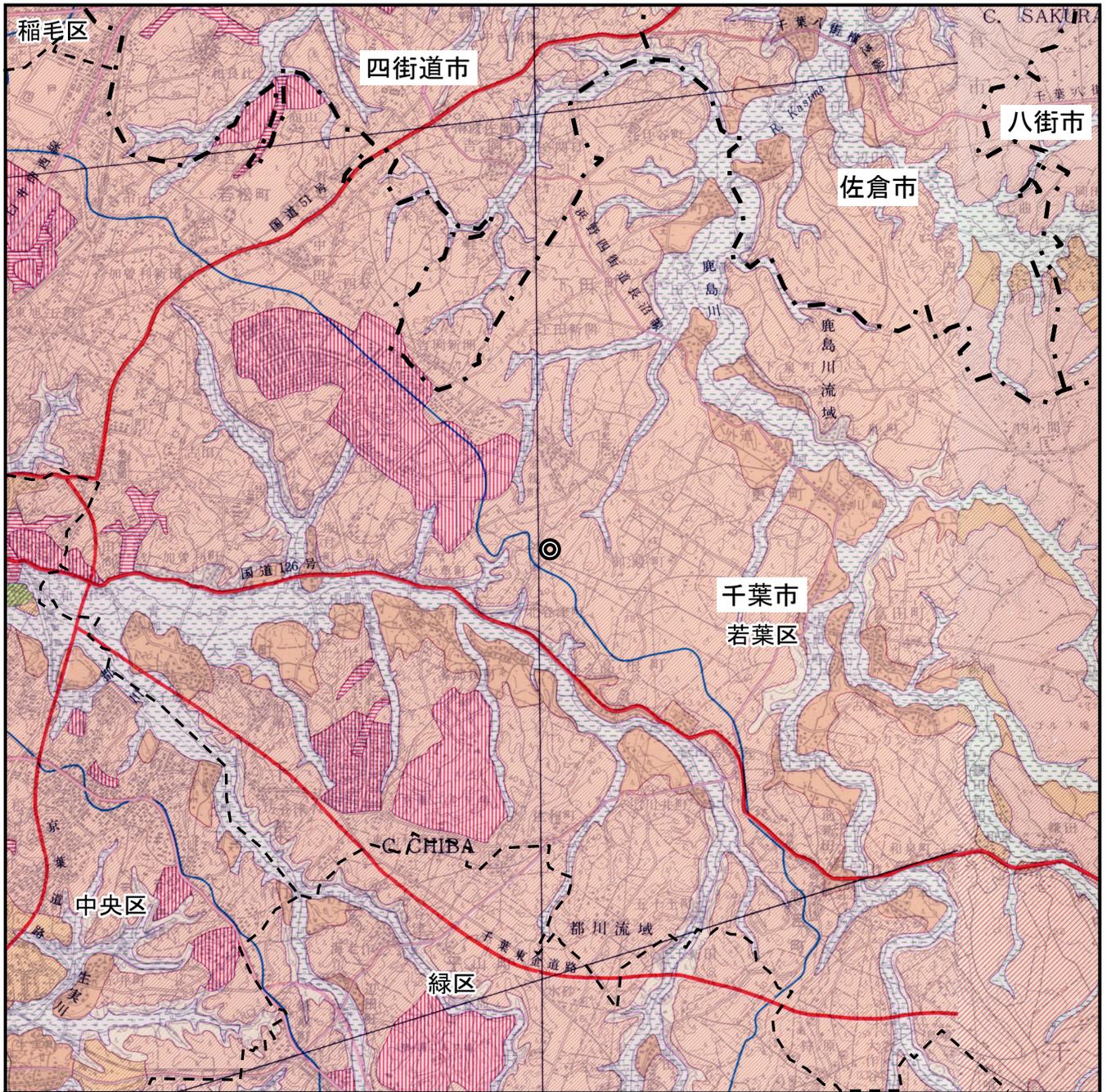
3. 湧水

対象事業実施区域及びその周辺の主要な湧水としては、表3-1. 22に示すとおり銘湧水が3地点存在する。

表3-1. 22 主要な銘湧水

湧水の名称	湧水の所在地	概要
都川白鷺橋付近自噴井	千葉市中央区 星久喜町	当該自噴井は千葉市で最大の湧出量（170～240 t/日）で水質も良好である。都川と支川都川の合流地点の白鷺橋のたもとにあり、平蓋自立型で横一文字の湧出口から地下水がほとばしっている。
姫池湧泉 (谷地斜面据湧水穴型)	千葉市若葉区 北谷津町	金光院谷地最上流に位置する。水量70 t/日ほどであるが、NO ₃ 濃度が高い。
野呂清水不動尊 (谷地斜面木の根型)	千葉市若葉区 野呂町	不動尊入口左に位置する。水量20 t/日ほどであり、NO ₃ 濃度も低い。電気伝導度が高いため、相当数の各種無機イオンが溶存していると思われる。

出典：「千葉県の自然誌 本編2：千葉県の大地」（平成9年3月 千葉県）



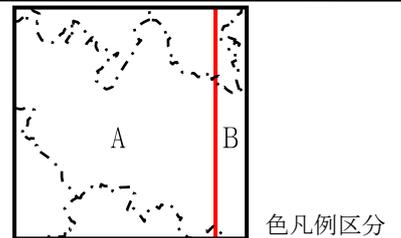
凡 例

- ◎ 対象事業実施区域
- - - 市境
- - - 区境

注) 図中のA、Bブロックでは凡例が異なるため、それぞれのブロックにおける凡例を示す。

出典：「土地分類基本調査図（地形分類図）（千葉）」
 （昭和54年6月 千葉県）
 「土地分類基本調査図（地形分類図）（東金・木戸）」
 （昭和52年7月 千葉県）

台地	
A	B
低地	
人工地形	
その他	



色凡例区分

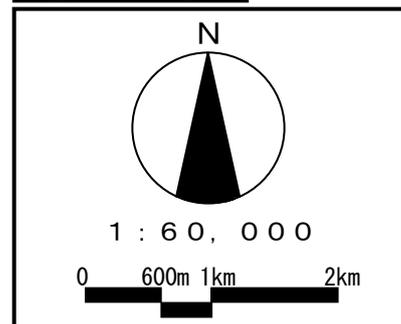
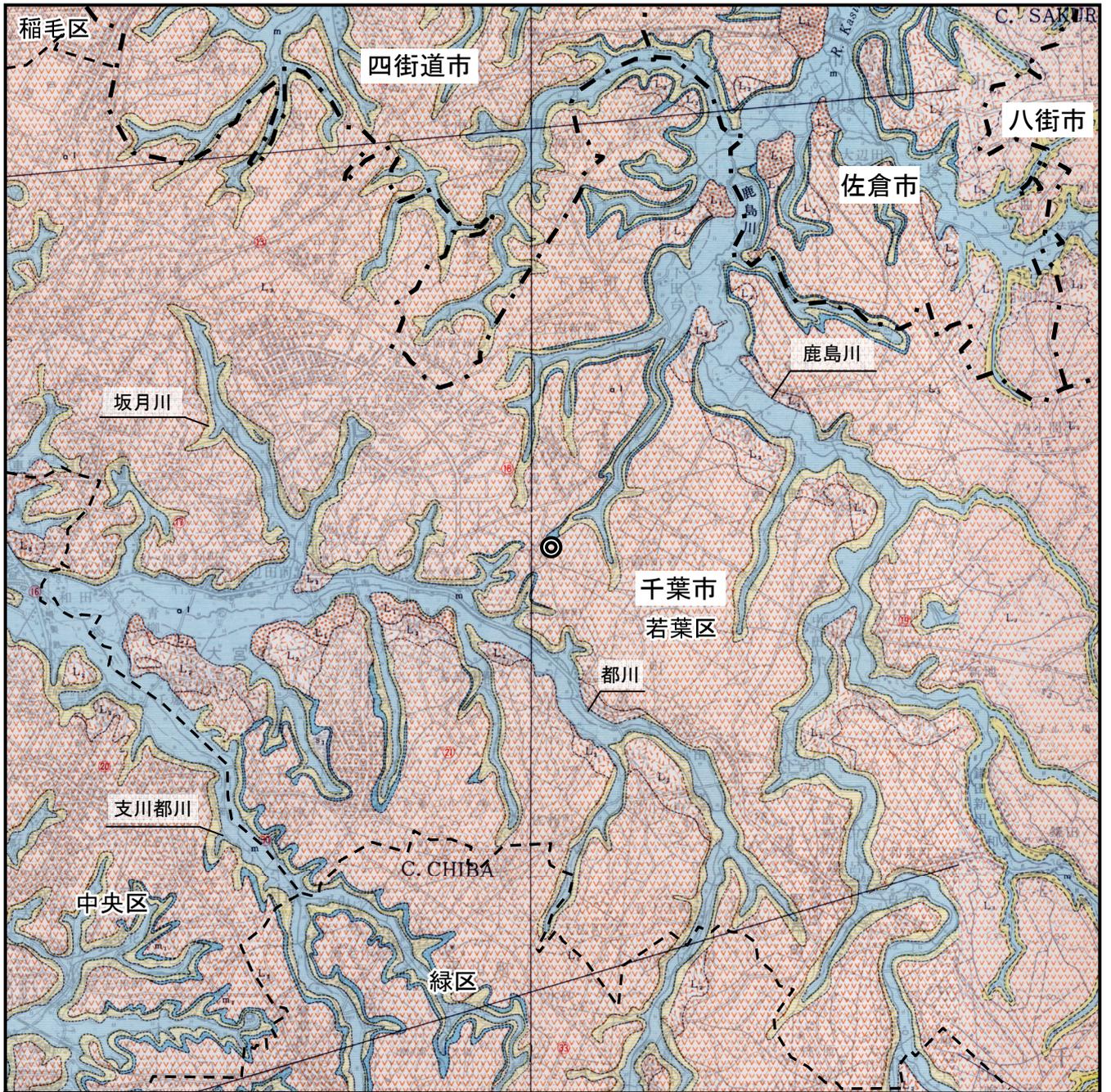


図 3-1.15 地形分類図



凡 例

- ◎ 対象事業実施区域
- · - 市境
- - - 区境

注) 図中のA、Bブロックでは凡例が異なるため、それぞれのブロックにおける凡例を示す。

出典：「土地分類基本調査図（表層地質図）（千葉）」
 （昭和54年6月 千葉県）
 「土地分類基本調査図（表層地質図）（東金・木戸）」
 （昭和52年7月 千葉県）

未固結堆積物	
A	B
m	m
S	S
m ₁	m ₁
S ₁	S ₁
S ₂	S ₂
S ₃	—
S ₄	—
re	—
半固結堆積物	
—	S ₃
—	SS ₁
火山性岩石	
L ₁	L ₁
L ₂	L ₂
L ₃	L ₃

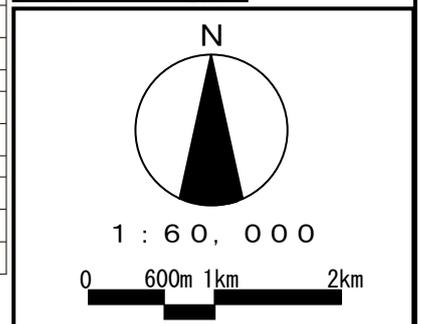
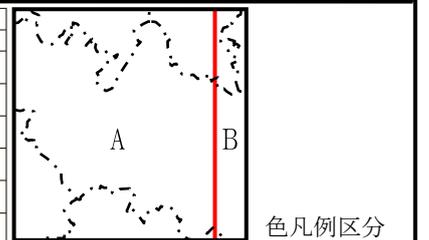


図 3-1.16 表層地質図

3-1-10 地盤の状況

対象事業実施区域及びその周辺の水準点における、平成22～26年の地盤変動の状況は、表3-1.23(1)、(2)に示すとおりである。また、水準点の位置は、図3-1.17に示すとおりである。

対象事業実施区域の位置する北谷津町には、水準点は存在しない。

周辺の水準点の変動量は、東北地方太平洋沖地震の影響により、平成23年1月～平成23年度観測日（平成23年11月～平成24年3月）に-57.3～-43.2mmとなっている。

なお、それ以降では、いずれの年も環境省が地盤沈下の注意が必要となる目安としている年間沈下量20mm以上沈下した地域はない。

表3-1.23(1) 水準点の変動状況

標石番号	所在地	変動量 (mm)				
		平成22年1月 ～ 平成23年1月	平成23年1月 ～ 平成23年度 観測日 ^{注1)}	平成24年1月 ～ 平成25年1月	平成25年1月 ～ 平成26年1月	平成26年1月 ～ 平成27年1月
35-278-002	千葉市若葉区佐和町 148	-1.2	-47.7	+3.2	+2.1	-5.4
35-278-003	千葉市若葉区中田町 1129	-2.4	-48.5	+4.3	+0.3	-6.5
35-278-005	千葉市若葉区和泉町 199	-2.6	-51.8	+5.2	-0.3	-8.7
原補3標石	千葉市若葉区富田町 983-1	-2.4	-52.4	+1.1	-2.1	-7.0
原補3金属標	千葉市若葉区富田町 983-1	-2.4	-52.3	+1.0	-2.1	-6.8
C-50	千葉市若葉区若松町 485	-2.9	-52.9	+4.7	+2.3	—
C-51 ^{注3)}	千葉市若葉区若松町 2092	-2.4	-52.5	—	—	—
	千葉市若葉区小倉町 1763-7	—	—	—	+1.0	-0.7
C-52	千葉市若葉区桜木町 44 ^{注4)}	-2.8	-50.4	+6.8	+1.7	+0.1
C-53	千葉市若葉区若松町 983-113	-5.6	-51.8	+3.9	+4.5	-5.4
C-54	千葉市若葉区小倉台 5-1-1	-8.4	-53.3	+5.1	+2.1	-3.3
C-55	千葉市若葉区加曽利町 680	-2.0	-48.4	+6.9	+3.0	+0.9
C-60	千葉市若葉区坂月町 277	-0.3	-50.6	+5.4	+2.0	—
C-61	千葉市若葉区多部田町 352	-0.3	-49.9	+5.4	+2.5	—
C-62	千葉市若葉区大宮町 2077	-9.7	-50.3	+3.7	+0.8	-3.1

注1) 測量期間において平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動が一定速度であると仮定できないため、基準日補正を行っていない。

注2) 表中の「—」は未観測であることを示している。

注3) 標石番号C-51は平成24年に、千葉市若葉区若松町2092から千葉市若葉区小倉町1763-7に移設している。

注4) 若葉区桜木町は現在、若葉区桜木となっている。

出典：「千葉市水準測量成果表（平成23～27年）」（千葉市環境局環境保全部）

「千葉県水準測量成果表（平成23～27年）」（千葉県環境生活部）

表3-1.23(2) 水準点の変動状況

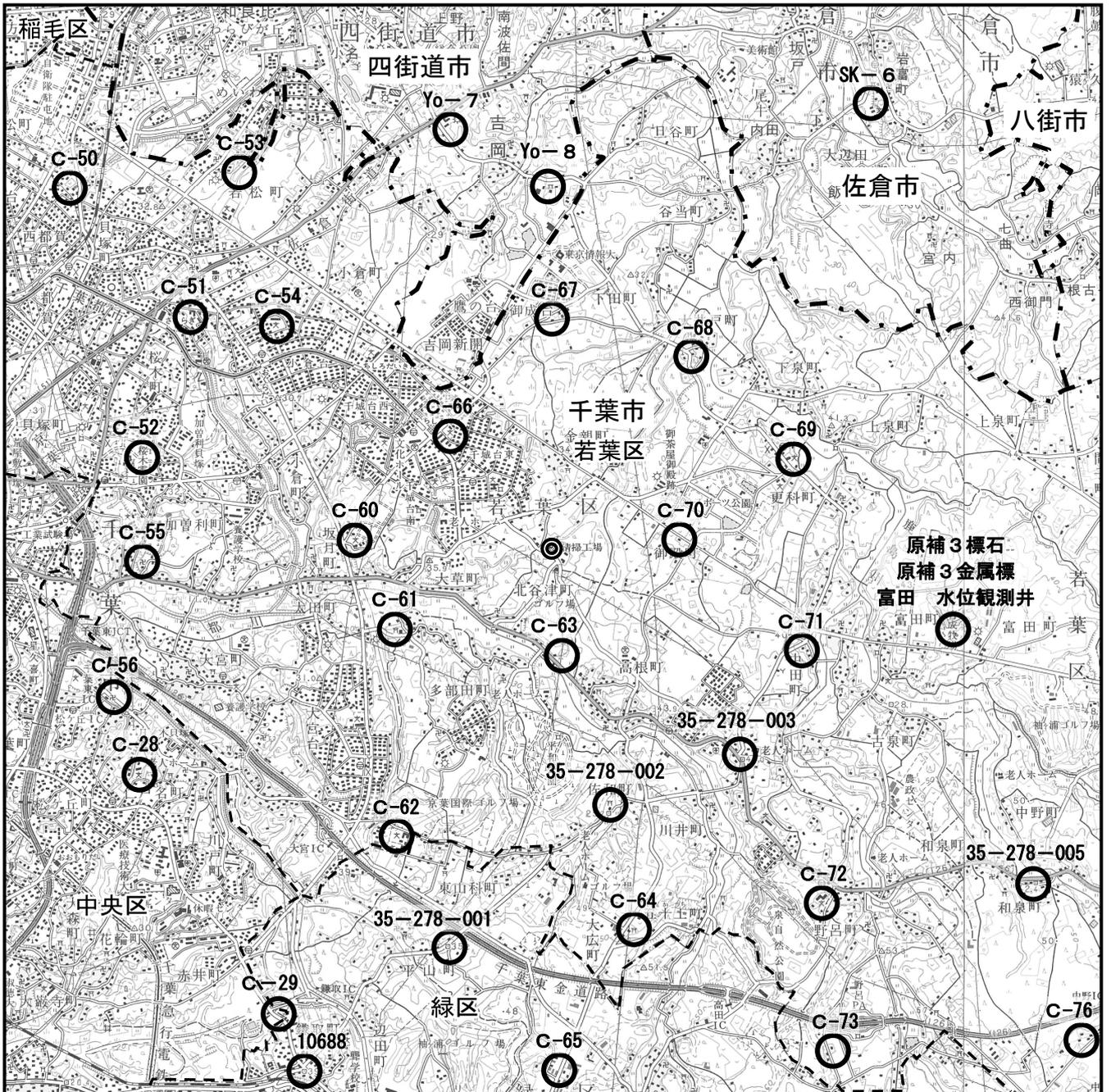
標石 番号	所在地	変動量 (mm)				
		平成22年1月 ～ 平成23年1月	平成23年1月 ～ 平成23年度 観測日 ^{注1)}	平成24年1月 ～ 平成25年1月	平成25年1月 ～ 平成26年1月	平成26年1月 ～ 平成27年1月
C-63	千葉市若葉区多部田町 1622	-0.5	-52.5	+5.8	-0.5	—
C-64	千葉市若葉区大広町 248	+0.1	-48.0	+2.7	+3.1	—
C-66	千葉市若葉区千城台東 1-15	-1.9	-54.2	+4.0	+1.0	-5.9
C-67	千葉市若葉区下田町 1098-7	-1.3	-53.4	+3.6	+1.8	-6.4
C-68	千葉市若葉区大井戸町 617-2	-4.0	-54.9	+2.5	-0.1	-7.1
C-69	千葉市若葉区更科町 2073	-5.5	-53.6	+1.2	-0.7	-7.7
C-70	千葉市若葉区御殿町 3	-4.0	-51.3	+3.4	+1.3	-5.8
C-71	千葉市若葉区中田町 860-1	-1.2	-50.7	+2.6	+1.6	-5.9
C-72	千葉市若葉区野呂町 215	-3.4	-47.5	+3.7	+0.4	-7.1
C-73	千葉市若葉区野呂町 1583	-4.4	-47.5	+4.0	+2.5	—
C-76	千葉市若葉区中野町 1698	-3.9	-47.4	+2.9	-1.6	-8.2
富田 水位観測井	千葉市若葉区富田町 983-1	-3.0	-52.4	+2.0	-2.4	-6.4
C-28	千葉市中央区仁戸名町 380	-1.2	-48.5	+7.6	+3.5	-1.4
C-56	千葉市中央区星久喜町 334	-1.2	-47.5	+7.0	+4.3	-1.7
10688	千葉市緑区鎌取町 112-80	-3.4	-43.2	+5.7	-0.6	-5.1
35-278-001	千葉市緑区平山町 733 地先	-0.7	-45.9	+5.3	+3.0	-1.9
C-29	千葉市緑区鎌取町 273 地先	+1.4	-44.8	+6.6	+4.8	-6.5
C-65	千葉市緑区平山町 1048	+0.4	-45.5	+3.2	+3.4	—
SK-6	佐倉市岩富町 540	-13.1	-57.3	-4.7	-5.7	+1.3
Yo-7	四街道市吉岡 477	-2.0	-56.4	+4.2	-0.5	+4.4
Yo-8	四街道市吉岡 1219-3	-3.5	-56.0	+4.3	-0.8	+3.2

注1) 測量期間において平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動が一定速度であると仮定できないため、基準日補正を行っていない。

注2) 表中の「—」は未観測であることを示している。

出典：「千葉市水準測量成果表（平成23～27年）」（千葉市環境局環境保全部）

「千葉県水準測量成果表（平成23～27年）」（千葉県環境生活部）



凡 例

- ◎ 対象事業実施区域
- - - 市境
- · · 区境
- 水準点位置

注) C-51 については、移設後の位置を示している。

出典：「千葉市水準測量成果表（平成 23～27 年）」（千葉市環境局環境保全部）
「千葉県水準測量成果表（平成 23～27 年）」（千葉県環境生活部）

この地図は、国土地理院発行の 1：50,000 地形図「千葉」「東金」を使用し、1：60,000 の縮尺に編集したものである。

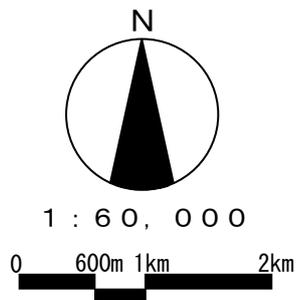


図 3-1.17 水準点位置図

3-1-11 土壌の状況

1. 土壌

対象事業実施区域及びその周辺の土壌図は、図3-1.18に示すとおりである。

対象事業実施区域は、地形分類図（図3-1.15参照）に示すとおり台地となっており、土壌は八街統の黒ボク土壌となっている。対象事業実施区域周辺は、主に八街統の黒ボク土壌となっており、鹿島川や都川等の川沿いの低地は、黒部統や下総統などグライ土壌となっている。

2. 土壌汚染

対象事業実施区域及びその周辺には、土壌汚染対策法に基づく指定区域は存在しない。

また、平成23～27年度において、対象事業実施区域及びその周辺で実施されたダイオキシン類の調査結果は表3-1.24に、調査地点は図3-1.19に示すとおりである。すべての年度において、環境基準（1,000pg-TEQ/g以下）を下回っている。

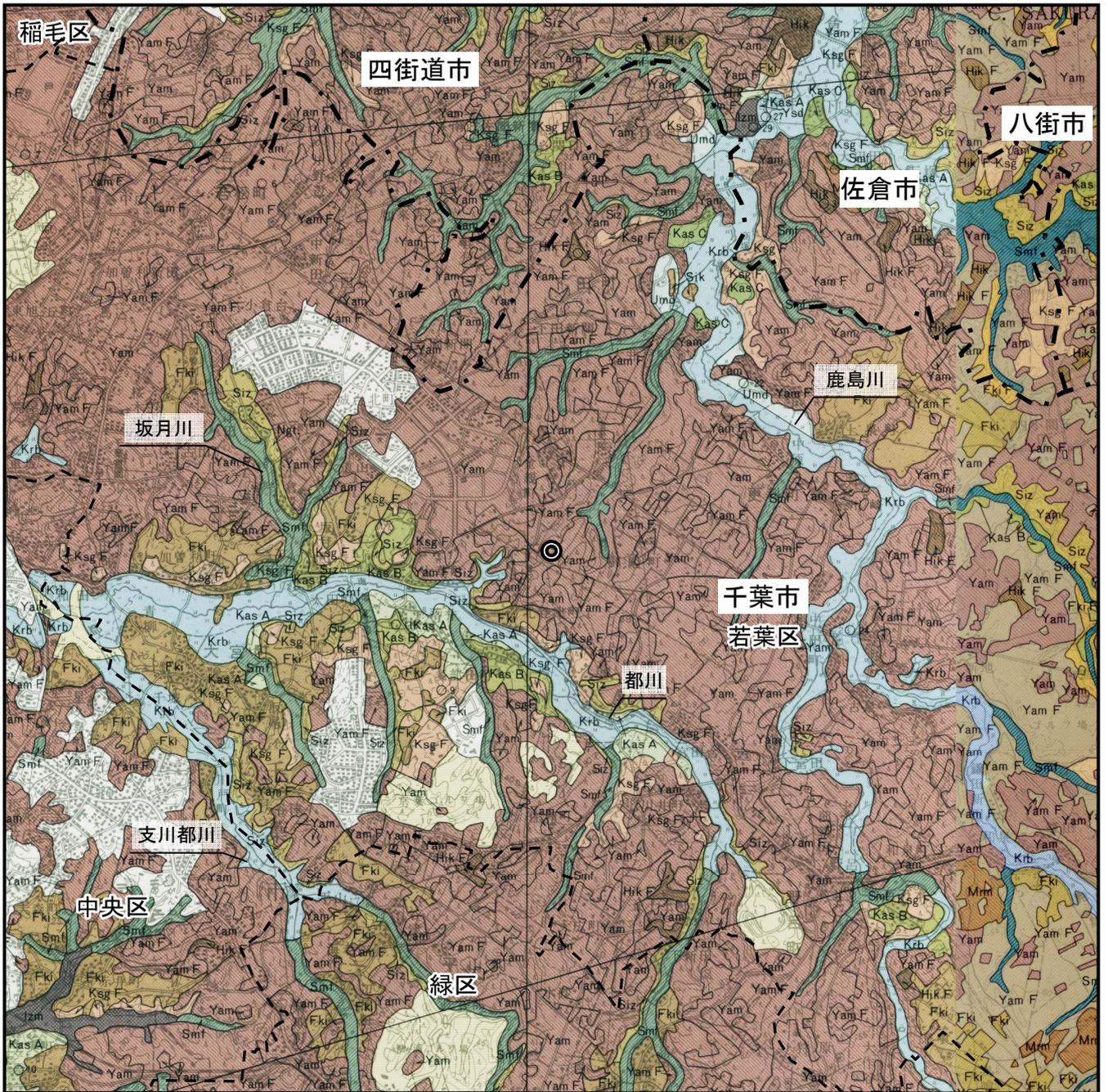
表3-1.24 ダイオキシン類調査結果（土壌）

単位：pg-TEQ/g

市区名	番号	調査地点	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	環境基準
千葉市	若葉区	1 更科	—	—	—	—	0.26	1,000以下
		2 野呂町	—	0.0046	—	—	—	
	中央区	3 松ヶ丘町	—	—	1.6	—	—	

注) 表中の「—」は調査が行われていないことを示している。

出典：「平成23～27年度ダイオキシン類調査結果」（千葉市ホームページ）



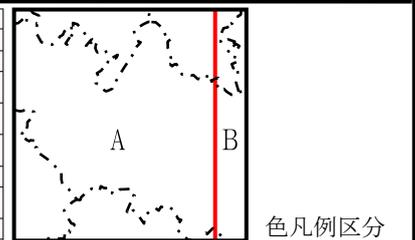
凡例

- ◎ 対象事業実施区域
- · - 市境
- - - 区境

注) 図中のA、Bブロックでは凡例が異なるため、それぞれのブロックにおける凡例を示す。

出典：「土地分類基本調査図（土壌図）（千葉）」
 (昭和54年6月 千葉県)
 「土地分類基本調査図（土壌図）（東金・木戸）」
 (昭和52年7月 千葉県)

台地の土壌		低地の土壌	
A	B	A	B
厚層黒ボク土壌		クライ土壌	
Hik F	Hik F	Umd	馬立統
Hik	Hik	Smf	下総統
-	Mrm	Krb	黒部統
黒ボク土壌		低位泥炭土壌	
Yam F	Yam F	Ysd	吉田統
Yam	Yam	黒泥土壌	
-	Fki F	Izm	和泉統
Fki	Fki	その他	
淡色黒ボク土壌			未区分地1
Ksg F	Ksg F		未区分地2
Kas A	-		
Kas B	Kas B		
Kas C	-		
Siz	Siz		



色凡例区分

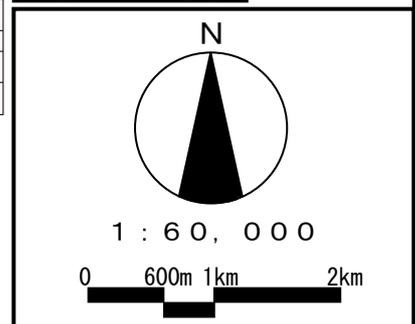
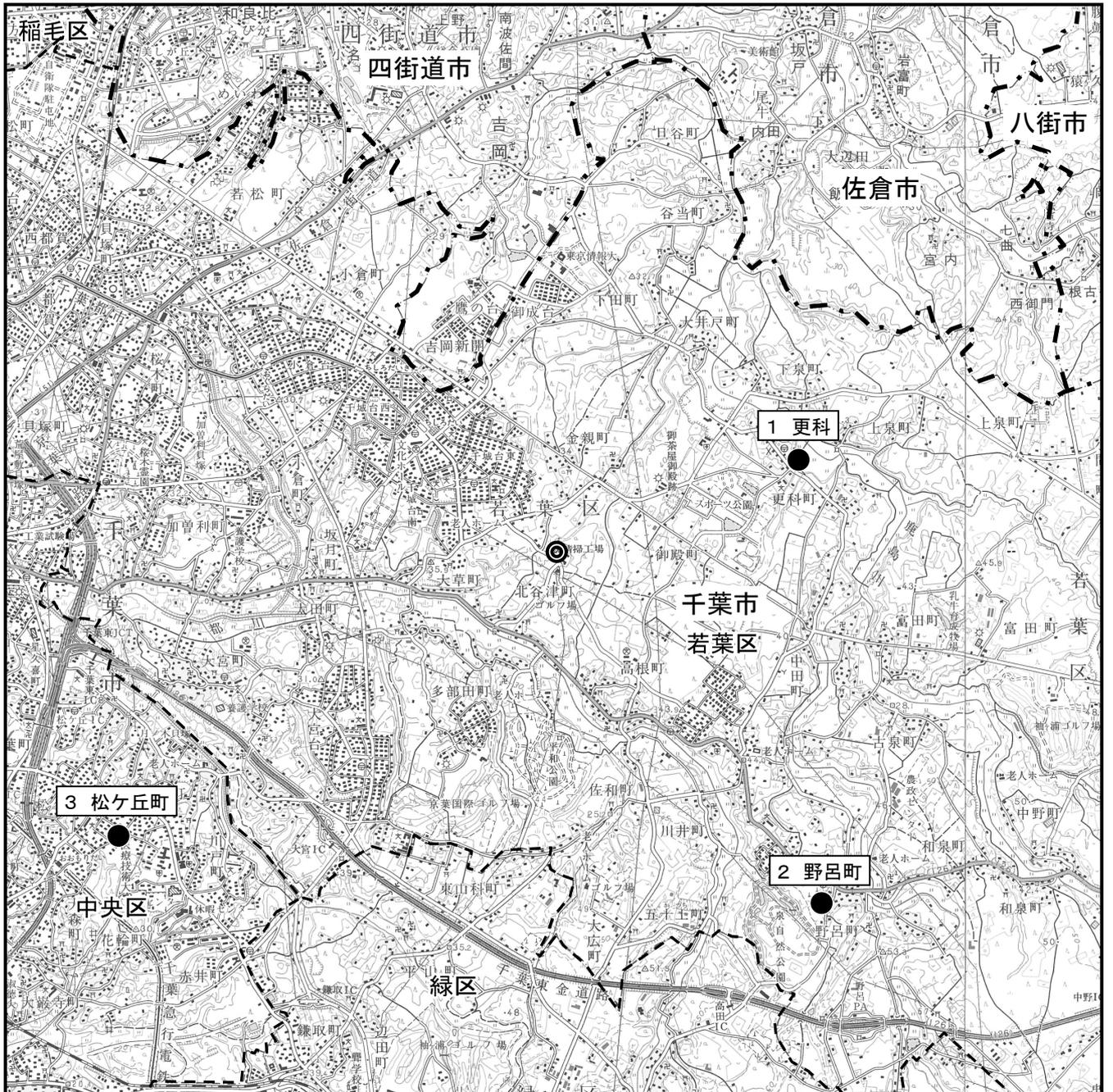


図 3-1.18 土壌図

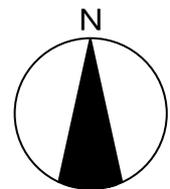


凡 例

- ◎ 対象事業実施区域
- · - 市境
- - - 区境
- ダイオキシン類調査地点

出典：「平成 23～27 年度ダイオキシン類調査結果」（千葉市ホームページ）

この地図は、国土地理院発行の 1：50,000 地形図「千葉」「東金」を使用し、1：60,000 の縮尺に編集したものである。



1 : 60,000



図 3-1.19 ダイオキシン類調査地点（土壌）